

---

公共

## 社会のなかの自己

監修・講師 高橋勝也

名古屋経済大学 法学部 准教授

### 学習のねらい

私たちは、社会の中で孤立して生きるのではなく、地域社会など集団の一員として生き、他者との協働により、国家などの公共的な空間をつくる存在です。私たちが社会に参画するとき、どのようなことを手がかりとしていけばよいのでしょうか。先人の取り組みや知恵、選択・判断するときの概念や理論を理解しながら、クラスメイトなど他者との「対話」を通じて、互いのさまざまな立場を理解し、高め合うことができるよう成長していきましょう。

### ポイント1 青年期と自己形成の課題／自己形成と社会への参画

高校生は大人なのか、子どもなのか。「青年期」とは、人間の生涯にわたる発達の中で、子どもから大人への過渡期にあたる時期です。私たちはこの青年期に「私らしさとは何か」について悩みながら、人生を左右するような体験をしたり、心に残る感動的な経験をしたりすることがあります。私たちは自我に目覚め、これらを手がかりとして、人間としてのあり方生き方を理解していく存在なのです。

そのような中、あなた自身が社会に参画したり、公共的な空間をつくり出そうとしたりすることは、将来の職業選択などキャリアを形成することになり、それがよりよい社会の形成にもつながっていきます。最近、ボランティアや社会問題の解決に取り組むソーシャルビジネスに取り組む若者が増えてきているのは、その表れと言えるでしょう。

### 探究活動のヒント

この番組では、毎回、高校生のみなさんの探究活動の一部をご紹介します。探究テーマについて生徒たちが意見を述べ合う、どの学校でも取り組みやすい活動です。

みなさんも、「私らしさ」について自分なりのテーマを設定して、探究してみてください。一人ひとり異なる「私らしさ」を探究し続けることが、あなた自身の成長につながっていきます。

**ポイント 2 個人として尊重される人間**

人間は社会的な存在です。私たちは人間集団という社会において、規則やルールを設けながら生活をしています。そのような中、すべての人はかけがえのない人格として尊重されなければならない、この原理はすべての人で共有する必要があります。このとき、先人の取り組みや知恵に触れたりしながら、自らの価値観を形成し、他者の価値観をも尊重することが大切になります。

哲学者カントは「人間の本当の自由とはなにか」を考えました。自由は人間としての義務を果たすことで得られ、自律的な人格こそが尊厳ある存在であるとして、それゆえに私たちは互いの人格を尊重すべきと唱えたのです。

このような考え方を通じて、私たちがどのように互いの人格を尊重すべきか。私たち一人ひとりが相互に支え合い、協働しながら、すべての個人が最大限に尊重される社会を築いていくにはどうするべきなのかを考えましょう。

**探究活動のヒント**

あなたも、身近な「社会の規則やルール」をテーマに探究してみませんか？当たり前だと思っていた規則やルールはなぜつくられたのか。そして私たちが「お互いに個人を尊重して生きていく」とはどういうことなのか？ぜひ探究してみてください。

**ポイント 3 社会的な存在としての人間**

「公共空間」とは、人々の自由な活動によって生まれるオープンな空間です。古代からも見受けられ、ギリシャのポリスにあったアゴラ（広場）はその一例です。ここで人々はそれぞれ自由にものを考えて発言し、自分と異なる価値観をもつ他者との「対話」を通じて、互いを高め合うことのできる社会的な存在になっていきました。

哲学者アーレントは、自分と異なる人と語り合い、複数の見方・考え方を学びながら、自分が何者であるかを表現し合うことが「活動」であり、人間の存在に意味を与えるとなりました。価値観の異なる人々とのコミュニケーションが大切な理由がここにあります。

日本には、「空気を読む」という世界でも独特な文化があると言われる。自分の意見や考えを積極的に出すのか、隠しておくのかという「空気を読む」行為は、公共空間にさまざまな影響を与えることもあるでしょう。

**探究活動のヒント**

あなたも「社会や公共空間で生きていくために必要なこと」をテーマに探究してみましょう。これからあなた自身が、公共空間をどのように築き上げていくのかを考えるきっかけになると思います。